

第11回月刊JP COAR「オープンアクセス新任担当者相談会」

実務事例紹介 [3]

2022.8.25

新聞のエクリチュールで

— 兵庫教育大学における機関リポジトリの広報 —

永井一樹

兵庫教育大学附属図書館 / 広報・普及作業部会

My Favorite Book



エクリチュール
écriture
【仏語】書くこと、書かれたもの

オープンアクセス時代の大学図書館員像（私見）

卵ではなく 鶏を探す

新聞のエクリチュール

“

論文誌が紙媒体から電子版へと変わる中、近年は複数の論文誌をまとめて読める「サブスクリプション」形式の契約が主流となっている。

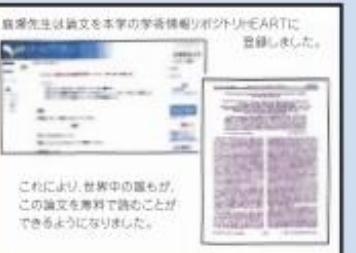
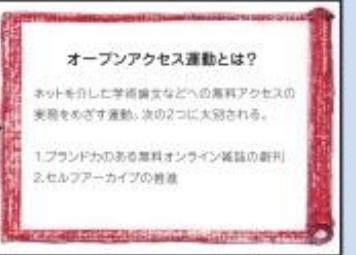
関西地方の私立大は17年度、大手出版社とのサブスクリプション契約を断念。図書館の担当者は「価格交渉に耐えられなかった」と話す。大学によって必要な論文を「読める人」と「読めない人」の差が生まれ、「学問の自由」が脅かされつつある。

”

(出典:「高騰する論文購読料 ドイツでは大学が出版社と対立」朝日新聞 2019年5月9日付)

MANGA

👉 マンガで覚えるオープンアクセス



Essay

カスケード査読

“一流誌”を却下された論文がブランド内の“二流誌”に回されるという、アウトレットモールみたいな市場

書評

学術出版の来た道

有田 正規 著

岩波科学ライブラリー307, 岩波書店, 2021
ISBN: 978-4-00-029707-3



グリーン・オープンアクセス（グリーンOA）の意義を説く寓話や戯画の類はどれもちょっと桃太郎の話に似ている。桃太郎は乱暴をはたらく鬼を征伐するが、鬼の柄の事情は語られないという点だ。だが鬼には鬼の言い分というものもある。

言い分回しは衝突したら、どうすればいいか。まずは相手の言い分に耳を澄まし、その言い分が一体どこから生まれてきたのか、それが来た道をあきらかにすることである。だが、ことOAに関して、私はそのような知的態度を採ってはこなかったと今更ながら反省している。グリーンOAが採用する桃太郎的な鈍感慈悲の話型にどっぷりと安住してしまったことを、である。

本書はそんな思考停止に陥った私のようなもぐりOA主義者を、鬼ヶ島というアウェーに連れて行ってくれる本である。それも征伐目的ではなく、歴史探訪ツアーとして。

もちろん学術出版の歴史を紐解く書物や論考は世にあまたあるだろう。本書の出色は、過去4世紀にわたる学術出版史を俯瞰しつつ、実際にそこに生きた人々のドラマティックな群像劇として描き出している点である。

私たちは、17世紀に繁栄したエルセフィア出版のネームバリューを利用して、エルゼビアを興したロバースや分冊化（研究分野の細分化・深化による論文数の増大）により事業を軌道に乗せたラマルクの物語、ナチスの民族浄化政策を生き延び、見事事業を再生させたフェルディナンド・シュブリングラーの物語などなど引き込まれることになる。

なかでも両社の窮地に燐然と現れた救世主として、本書において最も紙数を割いて語られる人物がいる。かのメディア王、ロバート・マクスウェルその人である。著者はなぜこの男に注目するのか。それは彼こそ、今日私たちが直面している学術雑誌の価格高騰の火付け役と目されているからだ。学術出版ビジネスを通じて彼が大富豪に登りつめた理由について、著者が纏々列举する中で私が個人的に興味を持ったのは、彼のブランドづくりの巧みさである。

業界の新参者だった彼は、風雲児らしく学術出版の伝統をこわしていくが、自分が興した出版社ベルガモンのブランドディングについては、ちゃっかり「老舗の出版社」らしさにこだわった。この点は、エルセフィアの威光にすがったロバースと同じだろう。ルイ・ヴィトンやエルメス同様、学術出版業界のブランドも伝統がすいぶんものをいうらしい。

Interview

2

密着

プラスワンの自炊で、無理なく楽しく。



永井恵夏（以下、永）：先生がよく使われるフレーズ「Cooking is Science, Culture and Art」。サイエンスが一番最初に来ていますね。

岸田恵津（以下、岸）：例えば、永井さんが作った「柿と野菜のごまマヨネーズ和え」では、にんじんと大根に塩をかけましたね。塩をかけると、澤田庄の差により、野菜の細胞内の水が細胞外に出てしまなります。そうすると和えたときに水っぽくならず味が決まります。また、にんじんにはビタミンCを分解する酵素があります。ところが、その酵素は塩に弱いので、塩をふると大根のビタミンCの減少を抑制する効果があります。塩味をつけるために何気なくしているのですが、意味があるのです。

永：なるほど。

岸：これだけの食材が、そんな風に「化学実験」をしながら身をかたを変え、食感などの物理変化したものを見て私たちの血や肉、力のもとになっているのが面白いと思いませんか？

永：言われると不思議ですね。科学と言えば、山本さんの「トマトとみかんのキラキラゼリー」は温度計とか使つてましたね。

山本真子：お菓子は計量・計衡が得意なので。ゼラチンが材料と分離せず、きれいに固まるためには適度管理が大切です。ベーキングパウダーの量にも適度があって、多くても少くともうまく膨らみません。

岸：ベーキングパウダーを使うと、なぜ膨らむか知ってる？ CO₂を出すからですね。重曹でも膨らむけれど、ベーキングパウダーには重曹だけでなく酸性剤や緩和剤などが含まれているので、重曹单独よりもガスの発生効率が高いのです。

森吉子（以下、森）：料理が栄養成分とか化学式で語られると、何だか空虚的にはサブリメントでOKっていう気になってきますね。でも味のないものを吃るのは嫌だな。

岸：なぜ嫌だと思うんだろう？

森：やっぱり心地しようか？　おいしそうって思えることが幸せなんじゃないですか。



1. 永井恵夏さん、油漬下巻を始めたことを
縦に木箱内に料理にチャレンジ。2. 烏賊一
の料理法。3. 森吉子さん、卵も最後に
上層部を上へ置きながら山本真子さん。
4. 森吉子さん、粉引に目覚めたのは日焼の兆。

岸：サブリメントではおいしそうに見えるんですね。「おいしそう」は私が下す味の判断です。背の高さとは違います。

吉橋寿明：店のメニューでも、単に料理名だけじゃなく素材まで詳しく書かれていたら、おいしく感じたりしますよね。

岸：それは情報によるおいしさですね。文化的・芸術的な面も料理にはとても重要です。作っているときはサイエンティスト、情り付けるときはアーティストですよ。

永：私は、即席の後とか鍋を作つて友達と囲むのが好きで

す。放ついたら食べない手とかいるから、一緒に食べるんです。やっぱり、大人数で食べると楽しいですね。

岸：たくさんいると自炊もし甲斐があるけれど、一人では面倒なこともあります。すべて手作りというほんんどいで、お惣菜も活用しましょう。野菜は不足しがちなので、青菜を買ったらすぐに茹でて冷蔵庫にストックしておけば4、5日は大丈夫。だから、まずはプラスワンの白次から始めるのがいいですね。

岸田恵津先生のブックセレクト

食の文化を語る
石毛庄造著 / ドムス出版 / 2009

Interview

3

同化



オープンサイエンス時代の大学図書館員像（私見）
・・・・・

養鶏から鶴飼いへ